第３回　幸町地区学校適正配置地元代表協議会

１　日　時　　平成２０年7月１０日（木）　１９時００分～２１時００分

２　場　所　　ガーデンタウン管理センター

３　出席者

（１）委　員

＊欠席委員：亀田委員、齋藤委員、仲山委員

＊代理出席：篠木委員の代理として平山氏が出席

（２）事務局

山﨑課長、古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

（３）傍聴者　　４名

４　議題

（１）学校適正配置の必要性について

（２）今年度の推計による幸町地区の小・中学校の状況について

（３）次回開催日時・場所について

５　会議資料

（１）資料１　学校の適正規模について

（２）資料２　学校の適正規模について　追加資料

・適正規模化に伴う変化について～花島小学校～

・小学校の学校規模別の少人数学級と少人数加配について

（３）資料３　今年度の推計による幸町地区の小・中学校の状況について

（４）資料４　幸町地区学校適正配置地元代表協議会委員からの意見・要望等

６　議事の概要

（１）学校適正配置の必要性について

資料１「学校の適正規模について」及び資料２「学校の適正規模について　追加資料」をもとに、事務局より説明があり、質疑応答を行った。

（２）今年度の推計による幸町地区の小・中学校の状況について

資料３「今年度の推計による幸町地区の小・中学校の状況について」をもとに、事務局より説明があり、質疑応答を行った。

（３）次回開催日時・場所

９月２７日（土）午前１０時００分から１２時００分、ガーデンタウン管理センターにて開催することとした。

７　発言要旨

（１）学校適正配置の必要性について

〈西重委員〉

統合増置教員について「統合１年目に２人、２年目に１人の増置教員を配置する。」とあるが、仮に幸町地区で統合が行われた場合でも同じように増置教員の配置があるのか。

〈事務局〉

花島小ではこのような実績があったということである。統合増置教員は県の基準なので、今後の統合校については、県と協議することになる。

〈山内委員〉

統合後の学校に「スクールカウンセラーの派遣を行う」とあるが、具体的にどのようなものかを教えていただきたい。

〈事務局〉

スクールカウンセラーは、臨床心理士の資格を持ち、子どもたちや保護者、教員からの相談に応じたりカウンセリングを行ったりしている。現在、週８時間勤務で中学校には全校配置されており、小学校には要請により対応している。統合校では、統合に伴う大きな環境の変化が起きた場合に備えて、子ども・保護者・教員の相談等に対応していくものである。

〈木幡委員〉

教員配置の基準があるが、実際に幸町第一小、幸町第二小及び幸町第四小が統合した場合や、幸町第一中、幸町第二中が統合した場合に、どのくらいの教員が配置されるのか、具体的な数値を出していただきたい。

〈事務局〉

本日は提示することはできないが、今後、委員の方から要望により提示していく。

〈阿南委員〉

平成２６年度までの児童・生徒数の推計値が示されているが、この推計には、私立や国立の中学校に進学する子どもの数も考慮されているのか。もし考慮されていなければ、公立以外の学校への進学があった場合、推計値が変わってしまうのではないか。

〈事務局〉

例えば、５歳児が１００人いたとして、その学区の小学校に入学する子どもが、９８人だったり、１１０人だったりすることがある。公立の学校へ進学する割合である「入学率」を出し、今年度と過去３年間の入学率の平均を反映させ推計値を算出している。あくまでも「推計」であるが、できるかぎりそのような状況を加味し信頼性を高めるようにしている。

〈松田委員〉

現在の子どもたちの数ではなく、将来の子どもたちの数が大きく関係するのではないのか。

〈事務局〉

この地区の児童・生徒数の推移に話が及んでいるので、先に「資料３　今年度の推計による幸町地区の小・中学校の状況について」を説明する。

（２）今年度の推計による幸町地区の小・中学校の状況について

〈事務局〉

・推計値は住民基本台帳を基に算出している。開発の要素が最も大きいが、計画の事前協議が上がった開発しか推計には入れていない。

・平成２１年度以降はあくまでも推計値なので、今後、開発の状況で増減はおきる。突然大規模な集合住宅が建設される場合等があるが、なるべく早く状況を把握し、対応していきたい。

・学級の平均人数は様々であり、幸町地区で一番多い学級は３８名、少ない学級は１５名となっており、非常に不均衡な状態となっている。また、学級数が少ないからといって学級の人数が少ないわけではない。例えば幸町第二小の１年生は、１学級でも３５名となっている。

〈松田委員〉

推計値の信頼性はどのくらいあるのか。

〈事務局〉

数年前の推計値と今年度の実績とを比較すると、それほど大きな差はない。よほど大きな開発等がなければ信頼性の高い数値だろう。

〈益田議長〉

先ほどの入学率の説明で「１００人入学するところに１０５人が入学する場合がある」というのは、どういうことか。

〈事務局〉

子どもルームの関係や学区の関係で、特別な事情により、学区外からの入学者もありうるということである。過去３年まで遡って入学率の平均を出し、推計値に反映させている。

〈細谷委員〉

人数にこだわっているが、自由学区制は考えていないのか。

〈事務局〉

千葉市は、「地域の子どもは地域で育てる」という考え方により学区制を基本としているので、自由学区制は考えていない。

〈外山委員〉

統廃合する場合の（学校の位置や規模の）想定はしているのか。

〈事務局〉

今回は前回の継続審議なので、話し合いのテーマは「適正配置の必要性について」である。統合のシミュレーションは本日の話し合いのテーマではないので、資料は提示していない。シミュレーションの資料は今後提示していく。

〈外山委員〉

統廃合は世の中の流れという気はする。現在の個々の学校の人数を議論してもしかたがない。具体的な統合案について考えたほうがよいのではないか。

〈益田議長〉

今回は前回の継続審議であるので、次回の協議会では、もう少し先に進んだ議論ができると考える。

〈西重委員〉

資料には、（学校適正配置の）一番のメリットが欠けているのではないか。それは財政面でのメリットである。統合により校長や教頭等が減るということは、人件費の削減になるのではないか。統合した場合、どれくらいの経費の削減ができるのか、財政面でのシミュレーションも出してほしい。そして削減できた分で教員の加配もできるのではないか。統合して中学校の数を減らすことには賛同しにくいが、本音もそろそろ聞きたい。財政面の資料を提示したほうが今後の話し合いは進むのではないか。

〈益田議長〉

事務局は財政面についての資料を提示できるのか、検討していただきたい。

〈山内委員〉

学校教育に係る費用は削減してほしくない。他のところの削減をしてほしい。小規模学校でも削減はしてほしくないと思う。

〈阿南委員〉

教育予算は市全体の予算の１２％であり、前年度比で伸びている。また、人口について、花島小のある花見川区は増えておらず、緑区では増えている。若葉区・稲毛区は減少しているようである。参考資料として、各区の人口推移を提示してほしい。

〈長田委員〉

統廃合に全て反対と言っているわけではないが、学校を適正配置すれば全てうまくいくという印象を与える説明には疑問を感じている。例えば、二つの学校を一つに統合することによって現実的に財政的な削減は生じる。その削減された財源は、学校の子どもたちに還元してほしい。教育費は節減してほしくないと思っている。統廃合によって削減された財源は、教員の研修を行ったり、教員加配など教育の質を高められることに使ってほしい。

〈外山委員〉

教育というものは、長い時間とお金がかかる。これからの未来を担う子どもたちのために、教育にお金をかけることが必要である。現状として、お金をかけないと教育ができない、という状況にあるのではないか。

〈益田議長〉

子どもの教育にお金がかかるということは、少子化の要因の一つになっているだろう。しかし、子ども（の教育）にはお金をかけなければいけないだろう。

〈山内委員〉

普段生活している中では、当事者である保護者の方の声が聞こえないので、この協議会で、もっと保護者の方たちの意見が聞きたい。

〈長田委員〉

２～３歳の子どもをもつ母親たちと意見を交換する会があり、そこで統廃合についての質問が出た。実際に統廃合が実現するのは、おそらく今は未就学児である自分たちの子どもが入学する時期なので、非常に心配しているようである。幸町１丁目の方からは「コミュニティがしっかりとしており、近くに小・中学校があり、安心して子育てができる環境だから、ここに住んでいる」という意見をいただいた。親には、安心して子どもを育てられる街であってほしいという願いがある。（統廃合しないで）学校を残す方向も考えていかなければならないのではないか。

〈松田委員〉

推計によると、児童数の推移は、ほぼ横ばいか減少していくようであるが、特に幸町第四小は減っている。いますぐ統廃合をやらなければならないと考えるが、統廃合ありきという考え方でよいのか。

〈事務局〉

「幸町にある小学校４校を２校に、中学校２校を１校にすることで適正な規模にできる」という方向性は「実施方針」の中で示しているが、地元代表協議会では、その方向性も含めて話し合ってほしい。幸町地区にはどのような学校の配置が必要なのかを話し合ってほしい。

〈益田議長〉

教育委員会としての方向性は示されている。地元代表協議会では、幸町地区にとってのよりよい教育環境とは何か、ということを話し合っていきたい。

〈巖倉委員〉

幸町２丁目の人口推移について不安なものがある。賃貸住宅や幸町団地が今後どうなっていくのかわからない。新港地区では、マンション建設に規制ができ、企業は土地を売却したいのにできないようで、先の見通しがつかない。統廃合はやむを得ないとは思うが、今後１０年で大きな変化があり、推計値が変わってくるのではないかという怖さがある。また、統合校の位置についても重要な問題ではないか。統合校の位置によっては、幸町２丁目が分断される可能性がある。統合校の位置も念頭において協議していかなければならないのではないか。

〈西重委員〉

統合校の位置により、賛成も反対もあり得ると思う。幸町１丁目・２丁目には、それぞれコミュニティがある。それが統合して一つの中学校になった場合、コミュニティは二つ、中学校は一つという状態になる。育成委員会などは一つになると思うが、一緒にできるのか不安がある。コミュニティというものを考えると、中学校を一つにするというのは難しいのではないか。特に中学校においては、コミュニティの問題も含めて統廃合について考えていくべきだろう。

〈阿南委員〉

稲浜小学校は小規模校で適正配置の対象になっているが、話し合いは保留になっているようである。高洲・高浜地区、磯辺地区等にもそれぞれ協議会があるそうだが、他の協議会の内容も知りたいので、情報を提供してほしい。

〈事務局〉

稲浜小学校は、実施方針では稲毛海岸・高洲地区の話し合いの枠組みに入っている。他の地区と同様、二つの中学校区で話し合いの枠組みを設定したが、地域コミュニティが複雑であり、また、公務員住宅の跡地問題、立替問題、商業地域の今後等、開発の不確定要素が高い地域でもあるため、まだ地元代表協議会が立ち上がっていない。

〈巖倉委員〉

学習指導要領が改訂にされて、今後授業時間数が増えると思うが、どのように授業時間数を配分し、増やしていくのか。新しい指導要領の結果が出るまでには、少なくとも３～４年くらいはかかるだろう。結果が出たとき、やはり小規模校のほうがよかった、ということにならないか不安である。

〈事務局〉

学習指導要領の改訂に伴い指導計画等は変わるが、教育内容の大きな変化はそれほどないのではないか。授業のコマ数は若干増えるが、現在も各学校においては、基準よりも多くの授業時間数を確保しているため、現状とさほど変わらないと考える。

〈布施委員〉

自分は幸町第一中のＰＴＡ代表だが、おそらくここにいる幸町地区小・中学校全６校の代表は、自分の学校はよい学校だと思っている。そのような状況で統合が必要ならば、統合後の青写真を見せていただかないと、前向きには考えられない。先ほど委員からも意見があったが、統合によって削減された費用の使われ方等について、子どもたちに還元されていくということがわかれば、前向きに考えられる。統合は「よりよい教育環境の整備のため」というが、具体的なシミュレーションを提示してほしい。また、中央区から幸町地区へ通学する子どもが増えている現状にあるので、中央区の方の声を聞く場がほしい。

〈事務局〉

できれば、一番子どもたちと関係している保護者の方の率直なご意見をお聞きしたい。

〈山内委員〉

ＰＴＡ活動を行う中で、学校の統廃合についての話題が出ているのではないかと思う。各学校のＰＴＡの代表の方に、統廃合について、会議等で話し合われているのか聞きたい。

〈川島委員〉

幸町第一小では、地元代表協議会でもらう資料は全て本部会に出している。そして本部会において、他の保護者にも配布するか話し合った後、配布している。働いているお母さんが多いので、ＰＴＡの活動には、２５０世帯中３０～４０世帯しか集まれないのが現状であるので、文書で配布していきたいと考えている。

〈山内委員〉

それに対する反響はどうか。

〈川島委員〉

意見等がある場合は、各学年にいる学年・学級委員がとりまとめており、意見は聞けるようになっている。

〈木幡委員〉

幸町第一中では、ＰＴＡの会議等では、統廃合については中心的な議論にはなりにくいが、地元代表協議会の内容は報告し、資料の提供を行っている。また、ＰＴＡには、統廃合が子どもたちにとってプラスなら賛成、マイナスなら反対であり、現在行われている議論を通じて判断することになる、と伝えている。付け加えると、いま子どもたちはいろいろな問題を抱えており、保護者は目の前の問題への対応に苦慮している。目の前の様々な問題と統廃合とが結びつかないようである。例えば、統廃合をすれば子どもたちが落ち着く、いじめがなくなる、勉強するようになるといったように、統廃合と学校で起こっている問題とが直接結びつけば、もっと保護者の関心は増すと思う。統廃合は教育現場の問題の解決に直結するものではなく、別の問題だ、ということではないのか。

〈長岡委員〉

今日は今までにない様々な意見が出されたのではないか。やはり統合のシミュレーションは提示してほしい。幸町地区は、それぞれのコミュニティの独自性や学区等で複雑になっている部分が実態としてある。それぞれの地域には自分たちの地域のお年寄りを敬う行事があり、子どもたちは、そういった地域の行事やかかわり合いの中で生活し、成長している。統合が行われたとしても、自分の地域にかかわれる行事を作っていく必要があるのではないか。実施方針で示されている適正配置の方向性では、中学校は各地区で一つとなっているが、例えば幸町１丁目では、中央区から通学している子どもたちの問題がある等、いろいろと複雑な問題があると思うので、今後議論していく必要があるだろう。教育予算の経費削減と再配分の問題もある。統廃合によって削減された教育費は、教育のために使ってほしい。この問題については、地元代表協議会が声を大きくして言っていかないといけない。幸町１丁目と幸町２丁目が、一度分かれて話し合い、そこで議論されたものを互いに持ち寄ってまた話し合っていくというようなことをする必要もあるのではないか。

〈巖倉委員〉

幸町２丁目には幼稚園が二つある。あいりす幼稚園は中央区からの子どもが３分の２、幸町からの子どもが３分の１という構成になっており、白菊幼稚園もいろいろな地域から子どもたちが集まっている。小学校への入学について、幼稚園の保護者はいろいろ話し合っているようだが、私たちには聞こえてこない。幼稚園の保護者の方々が、小学校や地域に対してどのような思い入れがあり、どのように考えているのか聞いてみたいので、協議会に招いていただければありがたいと思う。